

## 主体的な意味での働くこと、働く主体としての人間

6 働くというものの分析を、人間は地を従わせるべきであると告げる聖書のことばと関連させて続けるために、客観的な意味で働くことに注意を向けたときは、それぞれの分野での学者や、それぞれの専門部門で働いている人たちにはすでに深く詳細に知られている広範な諸問題に、かろうじて触れたばかりですが、今度は主体的な意味の働くことに、もつと注意を集中しなくてはなりません。先の分析で触れてきた創世記のことばが客観的な意味での仕事に間接的にしか触れないのと同じように、働く主体についてもただ間接的にしか話しませんが、それにしても語ることは多く、大変意味深いものがあります。

人間が地を従わせ治めなければならないのは「神にかたどられた姿」として人格の主体だからであって、計画的な合理的なしかたで行動し、自分について決定をすることができる自己実現の傾向をもった主体的存在だからです。つまり人間は一人の人格として働く主体です。一人の人格として人間は働き、働く過程に属する多様な活動をします。仕事の客観的な内容とは別に、このような多くの活動は、人間が自分の人間性を実現することのために役立ち、その人の人間性のゆえに、一人の人格である、という自分の天命を満たすために役立たせら

れなくてはなりません。このことをめぐる主要な真理は最近の第二バチカン公会議の『現代世界憲章』、なかでも人間の召命について述べる第一章で思い起こされています。

このように、ここで思いめぐらす聖書の文書でいわれている「治める」とは、働くことの客観的な広がりだけでなく、働くことの主体的な奥行きを理解へと思いを向けさせます。働くことというものは人間と人類が地を従わせる過程だと受け取るとして、この過程をとおして人間が自分を表現し「治める」人として自分を確認するときのみ、聖書に表された基本的な観念に適合しています。この「治める」は客観的な広がりだけでなく、むしろ主体的な奥行きにこそあたることで、それは働くことの倫理的な性格にかかわることです。人間の働くことに独自の倫理的価値があることは疑いのないことで、それは働く主体が人格、意識をもつ自由な主体で、自分のことを自分で決定する主体だという事実と明らかに直接に結びついています。人間の労働をめぐるキリスト教的な教えの基本的な変わらない中核ともいえるこの真理は、一つの時代全体の特徴ともなる重要な社会問題の設定のしかたのために基本的な意味をもち、今後もち続けます。

古い時代の世界は、人の成し遂げる仕事によって人々を階級別に分ける独特の分けかたを

採用しました。体力の行使、筋肉と手の働きを労働者に求める仕事は、自由人にはふさわしくないものとみなされて、奴隷たちにあてがわれました。ところでキリスト教は、すでに旧約にあった物事のある面を発展させて、この分野での考えかたの根源的な変換をもたらしました。その出発点となったのは福音の告げる宝の全体、なかでも神でありながらすべてにおいてわたしたちと同じになられた方が地上の生活の年月の大部分を大工の仕事場で労働にさげられたという真実です。このことはそれ自体もつとも多く語る「働くことの福音」です。人間の働くことの価値を決めるのはまずどういう種類の仕事がなされているかではなく、仕事をしている人が人格だという事実が基礎となっています。働くことの尊さの源泉はまず主體的な奥行きに求められるのであって客観的広がりではないということです。

このような観念は、人の成し遂げる仕事によって人々を階級別に分ける古い分け方の基礎自体を払いのけてしまいます。それだからといって客観的な観点から人間の仕事にどんなしかたでも番付や評価が下せないとか、してはいけないというわけではありません。働くことの価値の第一次の基礎は働く主体である人間自身だというだけのことです。このことは直ちに倫理的な生活をもった大変重要な結論へとつながります。人間は働くように生まれていて、

働くように呼ばれているということがどんなに真実であっても、まず第一に働くことは「人間のため」であって、人間が「仕事」のためにいるのではないということです。この結論をとおして、働くことの客観的意味よりも働くことの主体的意味が優先することを認めるのが当然だということになります。このように物事を考えるとき、そのうえで人の成し遂げる種々の仕事が大小の客観的な価値をもつこともありうるとしても、それでもそれぞれの仕事は働く主体、つまり仕事を成し遂げる人間、人格の尊さの尺度によって評価されると、はっきりいっておきたいと思えます。他方において、人のする仕事とは別に、この仕事はその人の活動の目的で、ときには多く要求される目的だと仮定して、この目的というのはそれ自体決定的な意味をもつものではありません。事実、最後まで分析してみると、仕事の目的は、人の成し遂げる仕事が多様な仕事であっても、仕えるサービス業であっても、単調でつまらないとされたり一番疎外される仕事であっても、最終的にはいつも人間自身です。

### 正しい価値序列への脅威

7 働くことについて、キリスト教的真理の富から、とくに「働くことの福音」のメッセー